

幼児の複合概念の理解の発達過程

—形容詞と名詞とからなる句を対象とした検討—
(経過報告)

広島大学	藤木大介
広島大学	関口道彦
広島大学	加島志保
広島大学	山崎晃

Development of the comprehension of complex phrases:
Using phrases composed of an adjective and a noun
(A Progress Report)

Hiroshima University	FUJIKI, Daisuke
Hiroshima University	SEKIGUCHI, Michihiko
Hiroshima University	KASHIMA, Shiho
Hiroshima University	YAMAZAKI, Akira

幼児が「黒い靴」といった句を理解できるようになるまでにどのような段階を経るかを検討した。Ninio (2004)は、名詞「靴」のみを理解する段階を経て、名詞と形容詞「黒い」とをあわせて理解できる段階に移行すると考えた。実験では、ヘブライ語を話す幼児を対象に、4枚の写真刺激(黒い靴、白い靴、黒い靴下、白い靴下)を呈示し、「黒い靴を取って」と教示した。Ninio (2004)の考えにしたがえば、発達初期では名詞に依存した誤答(つまり、白い靴の選択)が形容詞に依存した誤答(つまり、黒い靴下の選択)よりも多く出現すること予測され、実験結果もこれを支持した。しかし、Ninio (2004)の用いたヘブライ語の名詞句では、名詞は句の初頭語でもあり、かつ句の統語上の主要部でもあるため、これらの要因が交絡している。本研究では、日本語を用いることでこの交絡を解消し、それでもなお、名詞依存の誤答が多く、発達初期では名詞に依存した理解をすることを示した。また、本研究の今後の課題と計画に関して論じた。

【キー・ワード】 語彙獲得, 形容詞の獲得, 句の理解

We investigated the developmental stages in the comprehension of phrases such as “black shoes.” Ninio (2004) has suggested that initially, children can first comprehend only the noun, “shoes.” They later reach the stage in which they can also comprehend the noun together with the adjective “black.” Ninio (2004) presented four pictures (black shoes, white shoes, black socks, and white socks) to Hebrew speaking children with the following instructions: “Please give me black

shoes.” Ninio hypothesized that when performing this task, children would make more wrong responses with the correct noun (e.g. white shoes) than wrong responses with the correct adjective (e.g. black socks). The results of the experiment supported this hypothesis. However, Ninio’s experiment was confounded because in Hebrew, the noun is the first word, as well as the syntactic headword of a phrase. We eliminated this confounding factor by repeating Ninio’s experiment in the Japanese language. Also in our experiment children made more wrong responses with the correct noun than with the correct adjective. This result suggests that children in the early stage of development comprehend the noun phrases only on the basis of the noun. Future plans and problems of this research are discussed. Problems and research strategies in investigating the developmental stages of noun comprehension are discussed.

【Key Words】 Language Acquisition, Adjective Acquisition, Phrase Comprehension

幼児が言葉を理解できるようになるためには、語彙を獲得し、語を結びつけるルールを獲得する必要がある。言語発達研究では語彙獲得に関する研究が盛んである。しかし、言語理解の発達を明らかにするためには、どのような段階を経て複数の語で構成された句を理解可能となるかも調べる必要がある。例えば、形容詞「黒い」と名詞「靴」からなる句「黒い靴」はどのような発達段階を経て理解できるようになるのであろうか。この問題に対し、Ninio (2004)は、「黒い靴」を理解するためには最初に「靴」という語の意味を理解し、その属性として「黒い」の意味を割り当てる必要があると考えた。また、このように2段階の処理が必要なため、名詞と比べて形容詞の理解が難しいと考えた。そして、この理解プロセスの仮定に基づき、幼児が「黒い靴」を理解できるようになるまでには名詞「靴」にだけ注目して理解する段階があると予測した。この予測を確かめるために、Ninio (2004)はヘブライ語を話す幼児に黒い靴、白い靴、黒い靴下、白い靴下のカラー写真を示し、「黒い靴」がどれであるかを尋ねた(図1参照)。幼児が黒い靴を選べば正答であるが、白い靴を選べば名詞に依存した誤答、黒い靴下を選べば形容詞に依存した誤答、白い靴下を選べば完全な誤答であるといえる。Ninio (2004)の考えが正しければ名詞に依存した誤答が形容詞に依存した誤答よりも多くなると予測され、実験結果もこの予測通りとなった。

しかし、この研究には言語固有の問題がある。ヘブライ語では「大きなテディベア」の様な表現は“ha-dubi ha-gadol”(冠詞- テディベア 後節語-大きな)となる。確かにこの語順であれば Ninio (2004)

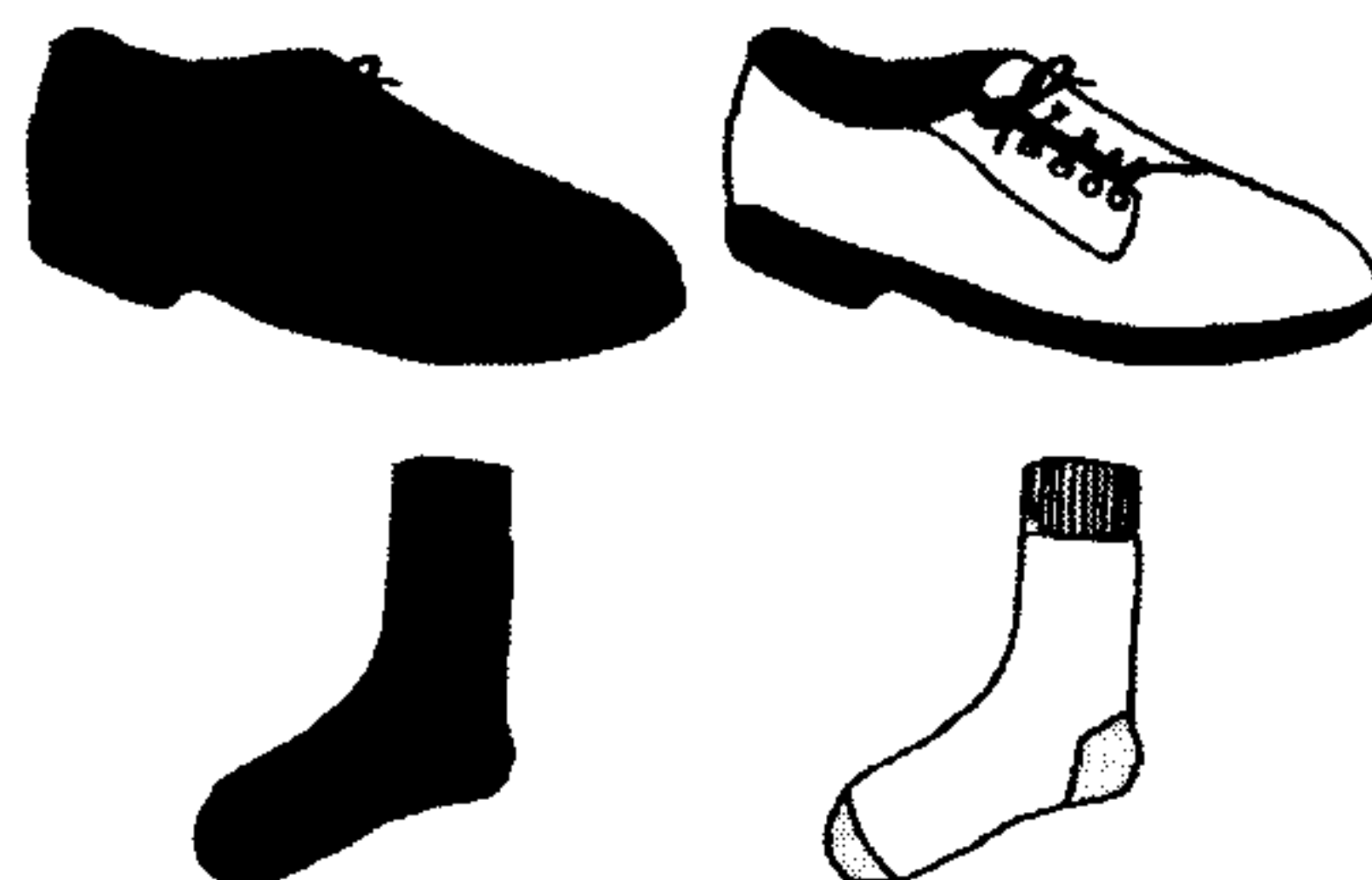


図1 本研究で用いた刺激の例

表1 材料

黒い靴 / 黒い靴下 / 白い靴 / 白い靴下
熱いコーヒー / 熱い牛乳 / 冷たいコーヒー / 冷たい牛乳
黄色のバナナ / 黄色のレモン / 緑色のバナナ / 緑色のレモン
広い道 / 広い川 / 狭い道 / 狭い川
厚いパン / 厚いロールケーキ / 薄いパン / 薄いロールケーキ
大きいボール / 大きい風船 / 小さいボール / 小さい風船
多いリンゴ / 多いトマト / 少ないリンゴ / 少ないトマト
浅い金魚鉢 / 浅いプール / 深い金魚鉢 / 深いプール
赤い傘 / 赤い長靴 / 青い傘 / 青い長靴
高い山 / 高い木 / 低い山 / 低い木
細いニンジン / 細いダイコン / 太いニンジン / 太いダイコン
長いフォーク / 長いスプーン / 短いフォーク / 短いスプーン

の2段階仮説に良くあてはまり、名詞、形容詞の入力の順で処理されると考えられ、そのために幼児が句を理解できるようになるまでに初頭の名詞のみを理解する段階があるとも考えられよう。しかし、ヘブライ語の名詞句中の名詞は必ず初頭語であるため、名詞であるという要因と、初頭語であるという要因が交絡している。これに対し、日本語を用いれば「大きなテディベア」の様に名詞が後置されるのでこの交絡を解消できる。そこで実験1では、日本語で Ninio (2004)の結果が追認されるかを検討する。もし、Ninio (2004)と同様、名詞に依存した誤答が形容詞に依存した誤答よりも多くなるならば、

仮説1：発達初期では句内の名詞のみを理解する段階がある
を支持するといえる。これに対し、形容詞に依存した誤答が多くなるならば、

仮説2：発達初期では句の初頭語のみを理解する段階がある
を支持するといえる。

しかし、実験1でNinio (2004)の結果が追認されたとしても、依然として交絡している要因が存在する。具体的には、名詞であることとそれが文法上の主要部であることが交絡している。そこで実験2では、形容詞を主要部とする「テディベアが大きい」のような形容詞句を用いてこの交絡を解消し、それでもなお Ninio (2004)と同様に名詞に依存した誤答が多くなるかを検討する。もしNinio (2004)と同様、名詞に依存した誤答が形容詞に依存した誤答よりも多くなるならば、仮説1を支持するといえる。これに対し、形容詞に依存した誤答が多くなるならば、

仮説3：発達初期では句の主要部のみを理解する段階がある
を支持するといえる。

実験1

方法

対象児 31名の幼児であった。平均月齢は44.16(レンジ32-55)であった。

材料 4枚1組で12組の絵を用いた(表1)。

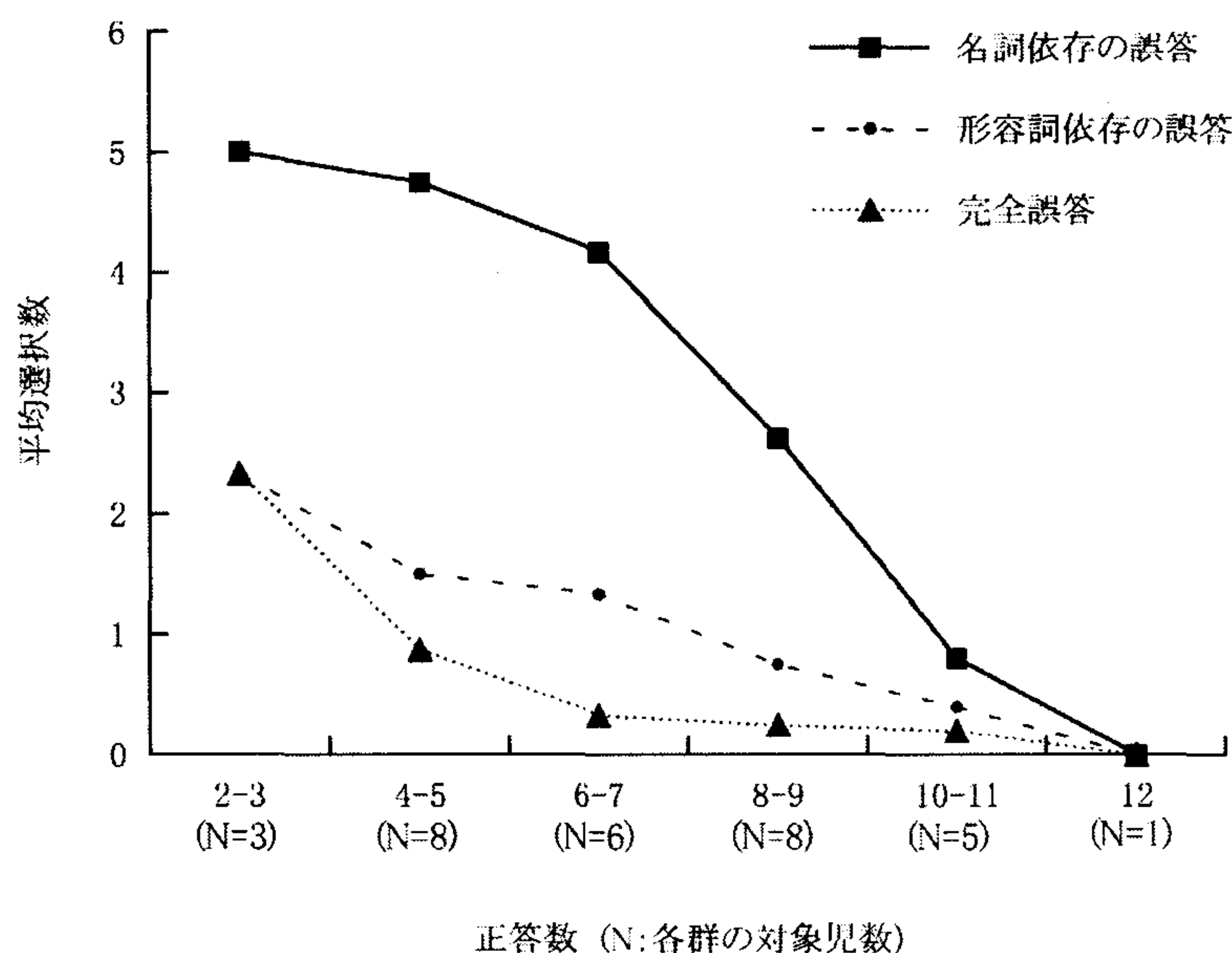


図2 実験1における各群の回答の種類毎の平均選択数

手続き 実験者は片手にパンダの手人形をし、「これから、絵を見てパンダ君が欲しがっているものをいうから、それがどの絵か教えてくれるかな?」と教示した。そして、「パンダ君が黒い靴を欲しがってるんだけど、どの絵か教えてくれるかな?」と尋ねた。このような質問を12回行った。

結果と考察

幼児を正答数によって6群に分け、それぞれの群の3種の誤答の平均選択数を求めた(図2)。この図から、誤答のうち名詞依存の誤答が多く、また、それは正答数の少ない発達初期で顕著であることが見て取れる。したがって、Ninio (2004)の結果が追認されたといえ、「仮説1:発達段階の初期では句内の名詞のみを理解する段階がある」が支持され、「仮説2:発達段階の初期では句の初等語のみを理解する段階がある」が否定された。

実験2

方法

対象児 実験1に参加していない31名の幼児であった。平均月齢は42.40(レンジ31-54)であった。

材料 実験1と同じものを用いた。

手続き 実験1と異なったのは、絵の選択を求める際の教示であり、「パンダ君の欲しい靴は黒い

んだけど、どの絵か教えてくれるかな」とした。

結果と考察

実験1と同様に幼児を正答数によって6群に分け、それぞれの群の3種類の誤答の平均選択数を求めた(図3)。結果の傾向は実験1と同様であった。したがって、Ninio (2004)の結果が追認されたといえ、「仮説1:発達段階の初期では句内の名詞のみを理解する段階がある」が支持され、「仮説3:発達段階の初期では句の主要部のみを理解する段階がある」が否定された。

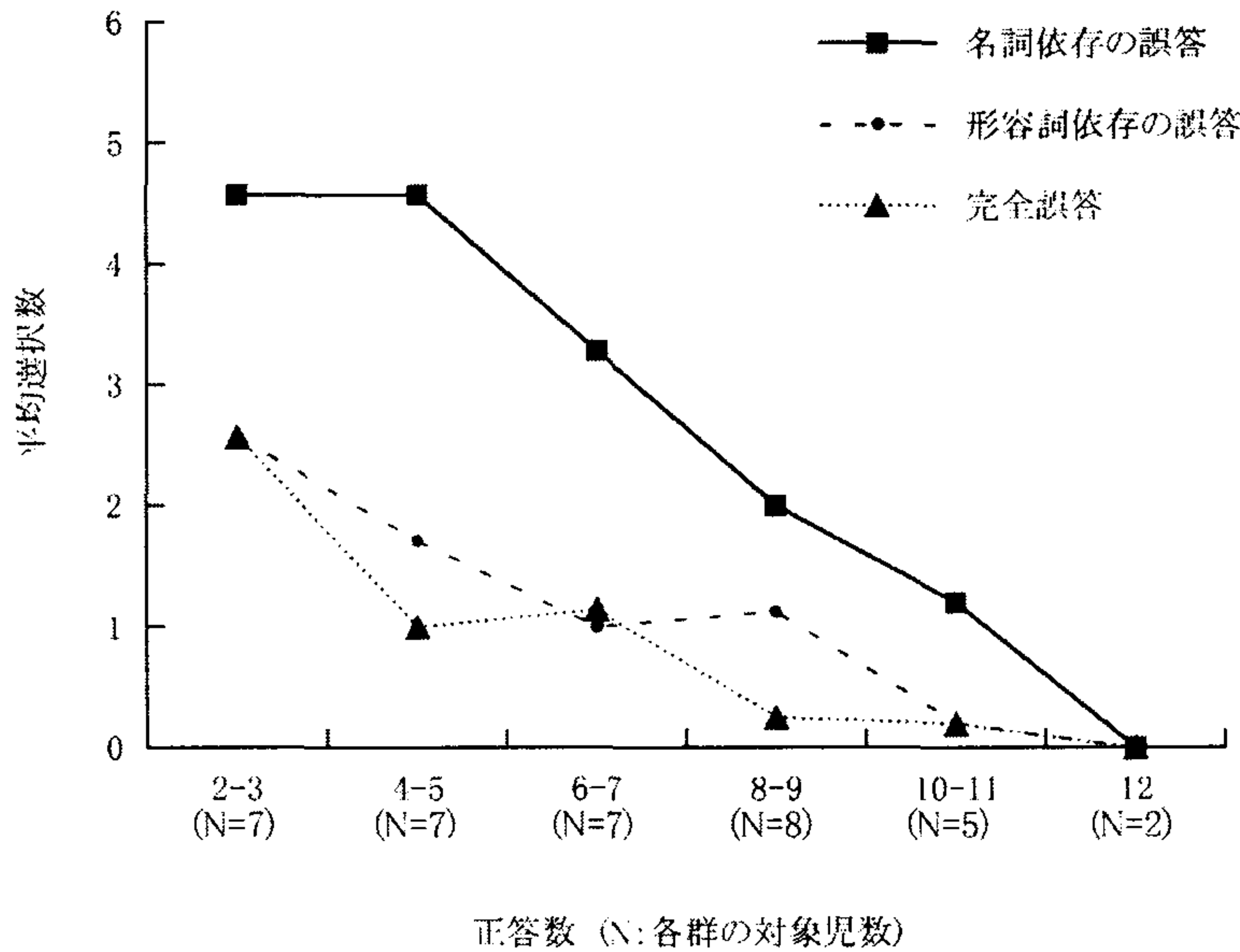


図3 実験2における各群の回答の種類毎の平均選択数

今後の計画

以上の結果からは、発達段階の初期では句内の名詞のみを理解する段階があると結論することがもっとも妥当だと考えられる。しかし、本研究には課題が残されている。それは、本実験の結果には上の結論以外の解釈があり得るということである。具体的には、幼児の語彙に関する知識で、名詞に関するものが形容詞に関するものよりも豊富であるという解釈があり得るということである。名詞と形容詞との間で知識に差がなかったということを示すためには、「黒い靴を取って」という教示に対し、黒い靴と黒い靴下の絵の刺激を呈示し、名詞に関する知識を確かめる課題と、黒い靴と白い靴の絵の刺激を呈示し、形容詞に関する知識を確かめる課題とを行い、これらの間で成績を比較し、差がないことを確認するといった方法があるだろう。今後は、この課題に対する実験を追加する計画である。

引用文献

Ninio, A. (2004). Young children's difficulty with adjectives modifying nouns. *Journal of Child Language*, 31, 255-285.